

令和7（2025）年度

第5学年

学 習 の 内 容 と 評 価



東京学芸大学附属国際中等教育学校

教科名	国語科	科目名 論理国語			単位数
学年	5 年	Japanese Language (Logic)			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	選択必履修科目
本科目の目標／伸ばしたい力					
○ 実社会に必要なとなる国語の知識や技能を身につける。 ○ 論理的、批判的に考える力伸ばし、創造的に考える力を養う。 ○ 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力をつける。 ○ 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させる姿勢を身につける。 ○ 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法					
知識・技能	・ 作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・ 表現の基盤となるスキルを獲得すること。 * 上記の獲得や理解を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。			小テスト 定期試験	
思考・判断・表現	・ ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・ 作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 * 上記についての力を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。			レポート スピーチ 課題	
主体的に学習に取り組む態度	・ 言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようとしている。 ・ 作品に探究的にアプローチしようとしている。 * 上記について、姿勢・態度を「知識・技能」・「思考・判断・表現」の観点も踏まえた上で、学習への取り組み・課題・振り返りの記述を用いて評価します。			学習への取り組み、課題、 振り返りの記述等	
使用教材					
教科書： 『論理国語』（大修館書店）					
副教材： 必要に応じて授業者が配布					
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。					
4～5月	単元①				
6～7月	単元②				
9～10月	単元③				
11～12月	単元④				
1～3月	単元⑤				
備考					
論理国語は5年と6年で2単位ずつ分割で履修します。両方履修して、論理国語を履修したことになります。					

教科名	国語科	科目名	文学国語	単位数
学年	5 年		Japanese Language (Literature)	2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能
- 我が国の言語文化に対する理解を深める力
- 深く共感したり豊かに想像したりする力、創造的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力
- 言葉がもつ価値への認識を深める力
- 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	・ 作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・ 表現の基盤となるスキルを獲得すること。 * 上記の獲得や理解を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。	レポート・ワークシート・期末テストなど
思考・判断・表現	・ ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・ 作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 * 上記についての力を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。	レポート・ワークシート・期末テストなど
主体的に学習に取り組む態度	・ 言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようとしている。 ・ 作品に探究的にアプローチしようとしている。 * 上記について、姿勢・態度を「知識・技能」・「思考・判断・表現」の観点も踏まえた上で、学習への取り組み・課題・振り返りの記述を用いて評価します。	課題やテストへの取り組み・学習への取り組みなど

使用教材

教科書： 文学国語（東京書籍）

副教材： カラー版新国語便覧（第一学習社）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4～7月	「文学と翻案」「伝統と変化」「和歌と贈答」 物語は作者のフィルターを通してどのように変化するのか分析する。 表現はそれぞれの時代や社会においてどのような機能を果たしているのか考察する。 小説『山月記』・漢文『人虎伝』・和歌・短歌・歌物語『伊勢物語』など
9～12月	「近代的自我と文学」「創作のスタイルと変化」「文学の特殊性と普遍性」 小説における虚構としての表現の可能性を考える。 文学の社会や文化・思想とのつながりを考察する。 小説『こころ』・『枕草子』・『源氏物語』・史伝『史記』など
1～3月	「寓話とテキスト」 寓話はどのように成立するのか考察する。 小説『山椒魚』・寓話

備考

文学国語は5年と6年で2単位ずつ分割で履修します。両方履修して、文学国語を履修したことになります。

教科名	国語科	科目名 古典探究				単位数
学年	5 年	Advanced Classics				2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修修科目		選択必修修科目
本科目の目標／伸ばしたい力						
○ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本や世界の伝統的な言語文化を深く理解する。 ○ 時代背景や社会背景を考えながら、他者・古人の考えや思いを言語表現を通して、深く理解する。 ○ 古典を通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 ○ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法						
知識・技能		・ 作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・ 表現の基盤となるスキルを獲得すること。 * 上記の獲得や理解を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。			小テスト 定期試験	
思考・判断・表現		・ ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・ 作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 * 上記についての力を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。			レポート 創作課題	
主体的に学習に取り組む態度		・ 言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようとしている。 ・ 作品に探究的にアプローチしようとしている。 * 上記について、姿勢・態度を「知識・技能」・「思考・判断・表現」の観点も踏まえた上で、学習への取り組み・課題・振り返りの記述を用いて評価します。			学習への取り組み、課題、振り返りの記述等	
使用教材						
教科書： 『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』（大修館書店）						
副教材： 必要に応じて授業者が配布						
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。						
4～5 月		単元①				
6～7 月		単元②				
9～10 月		単元③				
11～12 月		単元④				
1～3 月		単元⑤				
備考						
古典探究は5年と6年で2単位ずつ分割で履修します。両方履修して、古典探究を履修したことになります。						

教科名	国語科	科目名	日本語 A 文学			単位数
学年	5 年 DP	科目名	DP Japanese A literature HL			5
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

1. さまざまな媒体や形式、異なる時代、スタイル（文体）、文化からの多様なテキストに触れる。
2. 話す、読む、書く、見る、発表する、およびパフォーマンスのスキルを伸ばす。
3. 解釈や分析、評価のスキルを伸ばす。
4. テキストのフォーマルで美的な性質への感性を磨き、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる。
5. テキストと多様なものの見方、文化的文脈、地域とグローバルな問題との関わりについて理解を深め、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる。
6. 「言語と文学」と他の教科の関係性への理解を深める。
7. 自信をもち、創造的な方法でコミュニケーションをとり、協働する。
8. 言語と文学に対して、生涯にわたって関心と喜びをもつように促す。

DP 評価規準と評価方法

A：知識、理解、解釈	・作品やテキストについて、理解する力を身につける。 ・作品やテキストについての知識と理解を使用して、グローバルな問題に関する結論を導き出す。 ・作品やテキストを参照し、裏づけとなる内容をもとに考えを深める。	
B：分析と評価	・テキストの特徴や作者の選択に着目し、それらがどのように意味を形成するか分析する力を身につける。 ・言語、技法、スタイルの選択に着目し、他の作品との比較を通して、それらの選択の持つ効果を分析する力を身につける。	
C：焦点と構成	・自身の考えに一貫性を持たせ、焦点を絞って組み立て、効果的に構成する力を身につける。	
D：言語	・学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。 ・正確かつ明確であり、より多様な言葉遣いを身につける。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、DP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	・作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・表現の基盤となるスキルを獲得すること。 * 上記の獲得や理解を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。	
思考・判断・表現	・ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 * 上記についての力を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	・言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようと	

	している。 ・作品に探究的にアプローチしようとしている。 * 上記について、姿勢・態度を「知識・技能」・「思考・判断・表現」の観点も踏まえた上で、学習への取り組み・課題・振り返りの記述を用いて評価します。	
使用教材		
教科書：		
副教材：『地獄変・藪の中』『セールスマンの死』『クララとお日さま』『ソラリス』『野火』『ハイファに戻って』『少年が来る』『JR 上野駅』『平家物語』		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
4 月～7 月	「作者・読者・テキスト」 ・アダプテーションによってテーマはどのように変化するか ・テキストの語りを読者はどの程度信用するのか ・時代や社会は作者の創作と読者の解釈にどのように影響するか	
9 月～3 月	「時間と空間」 ・文学はどのように戦争を表象するのか ・経験された記憶は時間によってどのように変換されるか ・時間と空間の設定、移動はどのようにテキストのテーマに影響するのか ・過去の出来事や経験していない記憶をどのように結びつけるか ・異なる地域の経験を、文学はどのように結びつけることができるか	
備考		
DP では、5 年及び 6 年次で開講される「日本語 A：文学」を 5 単位履修していることが卒業要件になっています。		

2024/5/9 更新

教科名	地理歴史科	科目名	歴史総合／歴史総合(IM)			単位数
学年	5 年		Modern and Contemporary History			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

近現代史の展開過程について、時代の転換を意識しながら学習し、現代の諸課題について様々な視点や立場から歴史的背景をふまえて多面的に考察できるような歴史的思考力を培うことを目標とします。どのような進路（分野）に進むにしても、現代の国際社会で活躍するグローバル人材として不可欠な近現代史の大まかな流れを理解し、資料から読み取ったことを根拠に論じる学習姿勢を身に付け、論理的思考力や発信力をのばしていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得について評価します。	定期試験・課題等
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを評価します。	授業中の学習活動・定期試験・課題等
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で振り返りなどから総合的に評価します。	振り返りシート・課題・学習状況等

使用教材

教科書： 詳解歴史総合（東京書籍）

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

- 1 学期
- (1) 歴史の扉： 歴史と私たち／歴史の特質と資料
 - ・私たちの生活が歴史とどのようにつながっているか、様々な資料を活用してどのように議論することができるのか、考察します。
 - (2) 近代化と私たち： 結びつく世界と日本の開国／国民国家と明治維新
 - ・18 世紀の世界はどのようにつながっていたのか、アジアを中心に引き上げ、資料を用いて多面的・多角的に考察します。
 - ・19 世紀においてアジア諸国と欧米諸国との関係がどのように変容したのか、国民国家がどのように形成されたのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。
 - (3) 国際秩序の変化や大衆化と私たち： 第一次世界大戦と大衆社会／経済危機と第二次世界大戦
 - ・第一次世界大戦がどのように展開し、大戦後にどのように国際協調体制が形成されたのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。
 - ・世界恐慌がどのように国際協調体制の動揺につながり第二次世界大戦にいたったのか、第二次世界大戦後にどのような戦後秩序が形成されたのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。
- 2 学期
- (3) の続き
 - (4) グローバル化と私たち： 冷戦と世界経済／世界秩序の変容と日本
 - ・第三世界の台頭、西ヨーロッパ諸国や日本の経済成長等が冷戦の過程にどのような影響を与えたのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。
 - ・1970 年代以降の経済変容がどのように冷戦終結に影響したのか、冷戦終結によって世界はどのように変容したのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。
- 3 学期
- (5) 現代的な諸課題の形成と展望
 - ・現代的な諸課題のうちからいくつかのテーマを取り上げて問いを設定し、近代化・大衆化・グローバル化の指標を意識しながら、歴史的背景をふまえて議論します。

備考

詳細については、初回授業で説明します。

教科名	地理歴史科	科目名	歴史			単位数
学年	5 年 DP		DP History HL			5
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必修科目		選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

DP 歴史では、世界史を古代から現代まで広く取り上げるのではなく、いくつかのテーマを選んで深く探究していくことになります。本校では、20 世紀の世界史に関わるテーマ取り上げます。また、HL 選択項目としては四つの地域世界のうちヨーロッパ世界を中心に学習していきます。様々な史資料の分析、調査、プレゼンテーション、議論、エッセイライティングを通して歴史的思考力を高めていきます。

DP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	・詳細、適切、正確な歴史の知識がある。・歴史的概念と歴史的文脈を理解している。 ・歴史の文献に対する理解を示す。(内部評価と「試験問題 1」)	期末試験 IA のプロポーザル、途中経過、1 stDraft、Final Draft 授業中の学習活動全般
B：応用と分析	・明瞭で論理的な議論を組み立てる。・関連性の高い歴史の知識を使用して、分析を効果的に裏づける。・さまざまな文献を分析し、解釈する。(内部評価と「試験問題 1」)	期末試験 IA のプロポーザル、途中経過、1 stDraft、Final Draft 授業中の学習活動全般
C：知識の統合と評価	・証拠と分析を統合して、論理的な議論を構築する。 ・歴史上の問題や出来事についての異なる視点を評価して、議論に有効に統合する。 ・歴史的根拠として文献を評価し、その価値と限界を認識する。(内部評価と「試験問題 1」) ・関連する文献から得た情報を統合する。(内部評価と「試験問題 1」)	期末試験 IA のプロポーザル、途中経過、1 stDraft、Final Draft 授業中の学習活動全般
D：適切なスキルの活用と応用	・設問の要求に的確に応える、的の絞れた小論文を構成し、作成する。 ・歴史学者が用いる方法論と歴史学者が直面する課題について考察する。(内部評価) ・歴史の探究を導く適切かつ的の絞れた質問を組み立てる。(内部評価) ・リサーチスキル、および適切な文献を選択して参照し整理する能力があることを示す。(内部評価)	期末試験 IA のプロポーザル、途中経過、1 stDraft、Final Draft 授業中の学習活動全般

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。上記の観点 A・B に対応します。	期末試験 IA のプロポーザル、途中経過、1 stDraft、Final Draft 授業中の学習活動全般
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。上記の観点 C・D に対応します。	期末試験 IA のプロポーザル、途中経過、1 stDraft、Final Draft 授業中の学習活動全般
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、IA や授業中の活動、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	授業中の学習活動全般 振り返り

使用教材

教科書： *Causes & Effects of 20th Century Wars* (Access to History for the IB Diploma), Hodder, 2015,

Access to History for the IB Diploma: The move to global war, Hodder Education, 2015

ATH for the IB Diploma: The Cold War: Superpower Tensions and Rivalries (Second edition), Hodder Education, 2015,

副教材： 『世界史詳覧』（浜島書店）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	○第一次世界大戦の原因・経過・結果 …Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容に対応します。第一次世界大戦の原因・経過・結果のそれぞれについて、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。 ○戦間期前半のヨーロッパ …Paper 3-14「両大戦間のヨーロッパ諸国（1918～39 年）」と Paper 3-15「ヴェルサイユからベルリンへ：ヨーロッパの外交関係（1919～45 年）」の内容のうち、戦間期前半の 1920 年代の国際関係や世界の大きな動きについてドイツをめぐる動向を中心に引き上げ、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。
2 学期	○戦間期後半のヨーロッパ …Paper 1-3「世界規模の戦争への動き」の「事例研究 2：ドイツとイタリアの拡張政策（1933～40 年）」の内容に対応します。戦間期後半の 1930 年代のヨーロッパの動きについて取り上げるとともに、資料分析の手法を身に付けていきます。また Paper 3-14「両大戦間のヨーロッパ諸国（1918～39 年）」の内容のうちスペイン内戦の原因と経過について詳しく取り上げ、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。 ○ヨーロッパにおける第二次世界大戦の原因・経過・結果 …Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容を中心にして、Paper 3-15「ヴェルサイユからベルリンへ：ヨーロッパの外交関係（1919～45 年）」の内容ともオーバーラップさせながら、ヨーロッパにおける第二次世界大戦の原因・経過・結果のうち経過を中心に引き上げて、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。
3 学期	○アジア太平洋における第二次世界大戦の原因・経過・結果 …Paper 1-3「世界規模の戦争への動き」の「事例研究 1：東アジアにおける日本の拡張政策（1931～41 年）」の内容に対応します。満洲事変から真珠湾攻撃までの東アジア情勢について取り上げるとともに、資料分析の手法を身に付けていきます。また Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容として、アジア太平洋における第二次世界大戦の経過について取り上げ、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。 〈年間を通して〉 上記のほか、IA（内部評価）の「歴史研究」にも取り組みます。

備考

「歴史総合」の履修を代替するものとする。

教科名	公民科	科目名	政治・経済			単位数
学年	5 年		Politics and Economy			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

「私たちは、いかにしてよりよい社会を作っていくのか」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公民的資質)を養うことが目標です。

現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想する活動を通して、グローバル化する国際社会において主体的に生きる社会の有為な形成者としての資質・能力を育成したい。3 学年の「社会 (公民分野)」, 4 学年の「公共」の内容をさらに深化・発展させ、政治・経済に関する現代的諸課題を深く掘り下げていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期試験
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期試験&課題
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」,「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	振り返りシート

使用教材

教科書： 高等学校政治・経済 (清水書院)

副教材： 2025 ブームアップ政治・経済資料 (実教出版)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	○現代政治のしくみと日本 ・主として政治と法のあり方、憲法と基本的人権、平和主義、統治機構、選挙制度、地方自治について学習します
2 学期	○現代経済のしくみと日本 ・主として市場経済とメカニズム、景気変動、金融と財政、日本経済史、企業と労働問題について学習します。 ○現代日本の諸課題 ・国内政治、国内経済の知識や見方考え方をもち現代日本の諸課題を考察します。 ○現代の国際社会と政治 ・主として国際社会の成立、国連をはじめとする国際機関や国際協力、紛争と軍拡軍縮について学習します。
3 学期	○現代の国際社会と経済 ・主として国際貿易と分業、国際収支と為替、第二次世界大戦以降の IMF-GATT 体制、EU や ASEAN などの地域共同体について学習します。 ○国際社会の諸課題 ・ここまで学んだ見方考え方を働かせ、国際社会の諸課題について考察します。

備考

5 年政治・経済と 6 年政治・経済の学習内容はほぼ同じですが、6 年政経は 12 月で終わらせる (共通テスト前に終わらせる) をことを目標とします。多少時間をかけてじっくり勉強したい場合は 5 年で履修することをお勧めします。

教科名	数学科	科目名	数学Ⅱ			単位数	
学年	5 年		Mathematics II			4	
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目	
本科目の目標／伸ばしたい力							
本科目では前述に加え、特に現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。							
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法							
知識・技能		数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかにも評価します。			定期試験、レポート課題		
思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。			定期試験、レポート課題		
主体的に学習に取り組む態度		数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。			課題の振り返り、授業の振り返り		
使用教材							
教科書： 『数学Ⅱ Advanced』（東京書籍）							
副教材： 『TGUISS 数学 5・6』							
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。							
4～6 月		① 座標幾何Ⅰ（図形と方程式・不等式、いろいろな曲線） 直線や曲線などの平面図形に関する条件を適切な座標系や式を用いて表現・処理し、それらの図形の性質や関係を見いだしたり確かめたりできるようにするとともに、その方法を事象の考察に活用できるようにします。ここでは特に、その基本的な手法やその考え方を学びます。 (主な学習内容) 点と直線、円、軌跡と領域、2次曲線					
7～10 月		② 三角関数 具体的な事象の中から周期的な変化を見出し、三角関数を用いて表現・処理し、問題を考察し、解決することができるようにします。 (主な学習内容) 一般角、弧度法、三角関数の相互関係、三角関数のグラフ、三角関数の加法定理					
11～3 月		③ 極限と微分積分の考え 具体的な事象の考察を通して、極限概念を理解するとともに、極限の考えを用いて微分の考え、積分の考えを理解し、それらの関係を見出すことをできるようにします。また、これらを事象の考察・処理に活かすことができるようにします。 (主な学習内容) 極限、微分係数、導関数、導関数の応用、不定積分、定積分、面積					
備考							

教科名	数学科	科目名	数学 B			単位数	
学年	5 年		Mathematics B			2	
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修科目		選択必修科目	
本科目の目標／伸ばしたい力							
本科目では前述に加え、特に現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。							
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法							
知識・技能		数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価します。			定期試験、レポート課題		
思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。			定期試験、レポート課題		
主体的に学習に取り組む態度		数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。			課題の振り返り、授業の振り返り		
使用教材							
教科書： 『数学 B Advanced』（東京書籍）、『数学 C Advanced』（東京書籍）							
副教材： 『TGUISS 数学 5・6』							
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。							
4～10 月		① ベクトル ベクトルや媒介変数表示について基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、ベクトルの有用性を認識し、それらを用いて事象を数学的に考察し表現できるようにします。 (主な学習内容) 平面上のベクトルとその演算、平面上のベクトルと図形、空間座標、空間のベクトル					
11～3 月		② 推測統計 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養います。 (主な学習内容) 確率分布、推定、仮説と検定					
備考							

教科名	数学科	科目名	数学特講イマージョンA				単位数
学年	5 年		Mathematics seminar immersion A				2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

これまでの学習内容と数学的プロセスに基づき、特に SAT に特化して、英語での問題解決力の育成を図っていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価します。	小テスト 学期末評価テスト
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	小テスト 学期末評価テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	授業の振り返り 授業態度（宿題含む）

使用教材

教科書： なし

副教材： 必要に応じて

学習内容と年間授業計画

1 学期	SAT Math 演習(Numbers, equations and inequalities)
2 学期	SAT Math 演習(Functions, geometry)
3 学期	SAT Math 演習(Data analysis and interpretation)

備考

- ・将来的に海外の大学（特に英語圏）への進学を希望し、かつ SAT の受験を必要とする生徒を対象とします。
- ・数学 B の内容は行いません。したがって数学 B の単位としては認められないので注意してください。そのうえで海外大学への apply のための履修科目についても考慮した上で履修してください。

2025/04/01 更新

教科名	数学科	科目名	数学	単位数
学年	5 年 DP		DP Mathematics Applications and Interpretation SL	3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目
				選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

The aims of all DP mathematics courses are to enable students to:

1. develop a curiosity and enjoyment of mathematics, and appreciate its elegance and power
2. develop an understanding of the concepts, principles and nature of mathematics
3. communicate mathematics clearly, concisely and confidently in a variety of contexts
4. develop logical and creative thinking, and patience and persistence in problem solving to instill confidence in using mathematics
5. employ and refine their powers of abstraction and generalization
6. take action to apply and transfer skills to alternative situations, to other areas of knowledge and to future developments in their local and global communities
7. appreciate how developments in technology and mathematics influence each other
8. appreciate the moral, social and ethical questions arising from the work of mathematicians and the applications of mathematics
9. appreciate the universality of mathematics and its multicultural, international and historical perspectives
10. appreciate the contribution of mathematics to other disciplines, and as a particular “area of knowledge” in the TOK course
11. develop the ability to reflect critically upon their own work and the work of others
12. independently and collaboratively extend their understanding of mathematics.

DP 評価規準と評価方法

A : knowledge and skills	The student is evaluated whether he or she: • can recall, select and use their knowledge of mathematical facts, concepts and techniques in a variety of familiar and unfamiliar contexts sufficiently. • can use technology accurately, appropriately and efficiently both to explore new ideas and to solve problems sufficiently.	Exam Small quiz (Report task)
B : Reasoning and communication	The student is evaluated whether he or she: • can construct mathematical arguments through use of precise statements, logical deduction and inference, and by the manipulation of mathematical expressions sufficiently. • transform common realistic contexts into mathematics; comment on the context; sketch or draw mathematical diagrams, graphs or constructions both on paper and using technology; record methods, solutions and conclusions using standardized notation sufficiently.	Exam Small quiz (Report task)
C : Inquiry approaches and problem solving	The student is evaluated whether he or she: • can investigate unfamiliar situations, both abstract and real-world, involving organizing and analyzing information, making conjectures, drawing conclusions and testing their validity sufficiently. • can recall, select and use their knowledge of mathematical skills, results and models in both real and abstract contexts to solve problems sufficiently.	Exam Small quiz (Report task)

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価しま	Exam, Small quiz (Report task) ※Corresponding
-------	---	---

	す。	to Criterion A
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	Exam, Small quiz (Report task) ※Corresponding to Criterion B&C
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	Attitude Homework Reflection
使用教材		
教科書： Mathematics Applications and Interpretation SL for use with IB diploma Programme (Haese Mathematics)		
副教材： Revision Guide (Haese Mathematics)		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
Functions (April-July)	Trigonometric functions, Exponential and logarithm functions with e, Some other modellings, Loans and annuities	
Statistics (September-February)	Sampling and data, Discrete random variables, Probability distribution, Normal distribution, Hypothesis testing, some other statistics	
Mathematical exploration (March-April)	Each student must choose his or her own topic or research question and explore it, using mathematics.	
Pre-calculus (February-March, continued to July)	Differentiation, (Properties of curves, Applications of differentiation)	
備考		

2025/04/01 更新

教科名	理科	科目名	SS 化学基礎			単位数
学年	5 年		Basic Chemistry			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	- i.科学的知識について十分に理解を示す。 - ii.実験器具，測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 - iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 - iv.情報源を完璧に明記する。 - v.科学的知識と理解を応用し，実社会における問題や課題について多面的に述べる。	
思考・判断・表現	- i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 - ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 - iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 - iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 - v.探究課題に全面的に対応し，提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 - vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。	
主体的に学習に取り組む態度	- i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 - ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り，改善するための提案について詳しく述べる。 以下の要素の形成的評価や行動観察において、試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献	

使用教材

教科書： 化学基礎(実教出版)

副教材： サイエンスビュー化学総合資料、セミナー化学基礎

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 物質の構成、物質と化学結合、物質質量

2 学期	物質と化学反応式、酸と塩基
3 学期	酸化還元反応
備考	

教科名	理科	科目名	SS 地学基礎			単位数
学年	5 年		Basic Earth Science			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修科目	○	選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	i.科学的知識について十分に理解を示す。 ii.実験器具、測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv.情報源を完璧に明記する。 v.科学的知識と理解を応用し、実社会における問題や課題について多面的に述べる。	・定期考査
思考・判断・表現	i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v.探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。	・定期考査 ・レポート課題 ・パフォーマンス課題
主体的に学習に取り組む態度	i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。	・ポートフォリオ ・学期末の振り返り ・実験プリント ・小テスト

使用教材

教科書： 高等学校 地学基礎（啓林館）

副教材： センサー地学基礎 3rd Edition（啓林館）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	固体地球・プレート運動・地震・火山に関する内容を学習します。
2 学期	大気と海洋・宇宙・太陽系と地球の誕生に関する内容を学習します。
3 学期	古生物の変遷と地球環境に関する内容を学習します。
備考	

教科名	理科	科目名	SS 物理			単位数
学年	5 年		Advanced Physics			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修科目		選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	i.科学的知識について十分に理解を示す。 ii.実験器具、測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv.情報源を完璧に明記する。 v.科学的知識と理解を応用し、実社会における問題や課題について多面的に述べる。	・定期考査
思考・判断・表現	i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v.探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。	・定期考査 ・レポート課題 ・パフォーマンス課題
主体的に学習に取り組む態度	i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 以下の要素の形成的評価や行動観察において、試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献	・単元ごとの振り返り ・レポート課題

使用教材

教科書： 物理（東京書籍）

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 運動量、円運動、剛体のつり合いの内容を学習します。

2 学期	単振動、慣性力、万有引力、波の性質の内容を学習します。
3 学期	幾何光学、波動光学の内容を学習します。
備考	
物理は5年と6年で、分割で履修します。両方履修して、物理を履修したことになります。	

2024/5/9 更新

教科名	理科	科目名	SS 生物			単位数
学年	5 年		Advanced Biology			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	- i.科学的知識について十分に理解を示す。 - ii.実験器具，測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 - iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 - iv.情報源を完璧に明記する。 - v.科学的知識と理解を応用し，実社会における問題や課題について多面的に述べる。	・定期考査
思考・判断・表現	- i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 - ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 - iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 - iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 - v.探究課題に全面的に対応し，提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 - vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。	・定期考査 ・レポート課題 ・パフォーマンス課題
主体的に学習に取り組む態度	- i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 - ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り，改善するための提案について詳しく述べる。 以下の要素の形成的評価や行動観察において、試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献	・レポート課題 ・振り返り

使用教材

教科書： 生物（数研出版）

副教材： スクエア最新図説生物(第一学習社)、セミナー生物基礎＋生物(第一学習社)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 生物の進化の内容を学習します。

2 学期	生命現象と物質の内容を学習します。
3 学期	遺伝情報の発現と発生の内容を学習します。
備考	
生物は5年と6年で、分割で履修します。両方履修して、生物を履修したことになります。	

2025/4/3 更新

教科名	理科	科目名	サイエンスイマージョン A			単位数
学年	5 年		Science Immersion A			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必修科目		選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	- i.科学的知識について十分に理解を示す。 - ii.実験器具、測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 - iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 - iv.情報源を完璧に明記する。 - v.科学的知識と理解を応用し、実社会における問題や課題について多面的に述べる。	
思考・判断・表現	- i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 - ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 - iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 - iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 - v.探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 - vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。	
主体的に学習に取り組む態度	- i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 - ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。	・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献

使用教材

教科書： なし

副教材： 教員が準備する資料など

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期～2 学期	This course deals with the difference subsections of biology found in the 21st century. In the first half of the course, traditional biological topics (such as Plant Biology and Animal Biology) plus new 21st century subsections (Network Biology and Systems Biology) would be the focus.
2 学期～3 学期	In the second half of the course, the more specialized subsections of 21st century biology (such as Oral Biology and Skin Biology) would be the focus. All throughout these topics, students will be trained with Network Analytics to obtain and quantify data. Similarly, student projects during this time has the

opportunity to be published in international journals.

備考

サイエンスイマージョン A では、研究成果の発表の場として、各学会の Jr.セッションや大学や企業が主催する課題研究発表会などの外部研究発表での英語での発表への参加を積極的に勧める。

2025/4/4 更新

教科名	理科	科目名	化学			単位数
学年	5 年 DP		DP Chemistry SL			3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

DP 評価規準と評価方法

A：知識とその応用	・包括的な科目の知識を示し、概念および原理についてそれを自由に駆使する万全な能力を備えている。 ・関連する情報、概念、原理を幅広い文脈に選択・応用している。	
B：分析・評価・統合	・量的および質的なデータを徹底的に分析・評価することができる。 ・複雑な現象を詳細に説明し、的確な予測を立てている。 ・新しい、または難解なものも含め、優れた問題解決能力を示す。 ・的確な専門用語や表現技法を用いて、論理的かつ簡潔にコミュニケーションをとることができる。 ・洞察力や独自性が示されている。	
C：科学的研究スキル	・倫理にかなった方法で調査に取り組み、必要な場面では安全性および環境への影響に完璧な配慮を行っている。 ・調査では、洞察力と独自に設定する能力を示し、高い調査・分析能力をもって革新的な実習を完了させる。 ・本物の問題を解決するための革新的かつ効果的な結論を導く	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	単元テストや模試の評価に基づき、評価する。	
思考・判断・表現	単元テストや模試、実験レポートの評価に基づき、評価する。	
主体的に学習に取り組む態度	授業中に実施する探究活動や議論への取り組みに基づき、評価する。	

使用教材

教科書： 化学基礎(実教出版)

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	構造 1.1 物質の粒子性、構造 1.2 原子核、構造 1.3 電子配置 構造 3.1 周期表：元素の分類、構造 1.4 質量による粒子の計数、構造 1.5 理想気体 反応性 2.1 化学変化の量、構造 2.1 イオン性のモデル、構造 2.2 共有結合性のモデル、構造 2.3 金属性のモデル、構造 2.4 モデルから材料へ
2 学期	反応性 1.1 エンタルピー変化の測定、反応性 1.2 反応のエネルギーサイクル、反応性 1.3 燃料に由来するエネルギー 構造 1.4 質量による粒子の計数・モル、反応性 3.1 プロトンの移動反応、反応性 3.2 電子移動反

	応
3 学期	構造 3.2 官能基：有機化合物の分類、反応性 3.2 電子移動反応。反応性 3.3 電子を共有する反応、反応性 3.4 電子対を共有する反応
備考	
「化学基礎」の履修を代替するものとする。	

2024/5/9 更新

教科名	保健体育科	科目名	体育				単位数
学年	5 年		Physical Education				2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

運動の原則やルール、高度な戦術を考えることができる。

一連の動きや技の構成などが洗練され、美的でスムーズに展開するとともに、表現豊かに運動することができる。

より複雑な運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ったり、他者にも示したりすることができる。

個人やグループで、優れた作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりすることができる。

他者との連携を図るために、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、効果的なコミュニケーション力を発揮しようとすることができる。

体育ノートの提出等、決められた約束を守ったり、他者と協力して懸命に取り組んだりすることができる。

各運動種目における専門的な知識を深めながら技能を高めることができる。

種目選択においては技術的な向上だけでなく、各競技を運営していくための能力を養うことができる。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	体育・体育理論に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・体育ノート等から評価します。	学期末テスト、体育ノート、運動のパフォーマンス
思考・判断・表現	体育的な見方・考え方を働かせ、課題を発見したり解決したりできているかを授業中の学習活動・体育ノート等から評価します。	学期末テスト、体育ノート
主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや仲間との協力を実感しながら、体育を生活や他の学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	体育ノート及び授業内における活動状況

使用教材

教科書： 高等学校保健体育（第一学習社）

副教材： Active Sports（大修館書店）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	体づくり運動・陸上競技・体育理論
2 学期	ソフトボール・バドミントン・種目選択Ⅰ（バスケットボール、テニス、ソフトボール）※
3 学期	種目選択Ⅱ（アルティメット、卓球、バドミントン）※種目は変更になる場合があります

備考

見学する場合は、必ず「見学届」を提出してください。

教科名	保健体育科	科目名	保健			単位数
学年	5 年		Health			1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修科目	○	選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力		
心身の健康を保持増進するために必要な知識を身につけ、その概念を十分に理解したうえで実生活に結びつける能力。 健康に関する学習過程を検討した上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと自覚して果たす能力。 他者との連携を図り、協力や責任力を持って行う力。コミュニケーション力を発揮しようとする力。レポートなどの提出物等決められた約束を守る力。		
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法		
知識・技能	保健に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験等から評価します。	学期末テスト
思考・判断・表現	保健的な見方・考え方を働かせ、課題を発見したり解決したりできているかを授業中の学習活動・課題レポート等から評価します。	プレゼンテーション・レポート等課題
主体的に学習に取り組む態度	保健に関して社会課題などにも向き合いながら「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	授業内における活動状況
使用教材		
教科書： 高等学校保健体育（第一学習社） 副教材： アクティブスポーツ総合版（大修館書店）		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
第3章	生涯を通じる健康	
第4章	健康を支える環境づくり	
備考		

教科名	芸術科	科目名	音楽Ⅱ	単位数
学年	5 年		Music II	2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		
		必履修科目		
		選択必履修科目		

本科目の目標／伸ばしたい力

- 1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- 3 多様な音楽に対する理解を深め、多角的な視点視野を持って、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	音楽を形づくる要素が曲調や曲想、表現にどのように作用するか、また、歴史的背景と文脈を捉えながら音楽と音楽表現の本質に迫るうえで必要なリサーチ力や分析力、創意工夫に必要な音楽的技能を身に付けるようにする。	
思考・判断・表現	音楽表現の創意工夫やイメージの表出を通して音楽における自身のアイデンティティと向き合い、自他の音楽観との比較や評価をしながらより個性的な音楽表現と多様な音楽を受け入れられる感性を磨く。	
主体的に学習に取り組む態度	音楽の創作や表現の工夫において主体的・協働的に取り組む中でコミュニケーション力や粘り強さを育み、生涯にわたって多様な音楽が自身とどのように関わっていくのかについて深く考え、積極的に音や音楽を模索していく姿勢・態度を養う。	

使用教材

教科書： 教育芸術社 MOUSA 2

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	基礎音楽理論 音楽史と演奏の推移【歌唱・鑑賞】 即興演奏とアンサンブル【器楽・創作】
2 学期	リコーダー演習【器楽】 楽曲探究Ⅱ【器楽・鑑賞】 編曲演習【創作】
3 学期	編曲作品実践【器楽・創作】 ヴォーカルアンサンブル【歌唱】

備考

4 年次に音楽Ⅰを履修していること。

教科名	芸術科	科目名	美術Ⅱ			単位数
学年	5 年		Art and Design II			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修科目		選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

美術科では6年間で3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。(4年次は選択必修)

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

5年生は多様な表現や文化への関心を持ち、豊かな感性を持って創造する力を高める時期ととらえ、授業を展開していきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す	
思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考える ・主題を生成し個性豊かに発想し構想を練る ・自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める	
主体的に学習に取り組む態度	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組む ・生涯にわたり美術を愛好する心情 ・感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度	

使用教材

教科書： 光村図書 美術2

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	平面・デザイン 主題をもとに物語性などを工夫して表現する事を学びます。 (主な学習内容・活動内容) イラストレーション、漫画、鑑賞
2 学期	立体・彫刻 主題をもとに素材や技法などを工夫して立体作品を作ります (主な学習内容・活動内容) 彫塑、鑑賞
3 学期	平面・絵画 主題をもとに見せ方などを工夫して絵画作品を作ります (主な学習内容・活動内容) 壁画、共同制作、鑑賞

備考

4年次に美術Ⅰを履修していること。

教科名	芸術科	科目名	書道Ⅱ			単位数
学年	5 年		Calligraphy II			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修科目		選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

5年生の芸術書道は、書道における専門的な知識の学習を行うとともに、古典の臨書学習を通し、書道における伝統的な表現の方法を学び、豊かな芸術表現活動ができるようにします。書の様々な表現に触れながら、書における文化的活動の体験を通して、豊かな感性を育むとともに芸術への関心を深めます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深める ・書の伝統に 基づき、効果的に表現するための技能を身に付ける	
思考・判断・表現	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫する ・作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉える	
主体的に学習に取り組む態度	・主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情 ・感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度	

使用教材

教科書： 教育図書 書Ⅱ

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	漢字の書の学習，篆刻
2 学期	仮名の書の学習，実用書（年賀状）
3 学期	漢字仮名交じりの書の学習

備考

4 年次に書道Ⅰを履修していること。

2025/4/2 更新

教科名	芸術科	科目名	美術			単位数
学年	5 年 DP		DP Visual arts SL			3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必修科目		選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

In DP Visual Arts students will experiment with a wide variety of genres and styles while exploring their own creative and cultural backgrounds. The course will focus on finding personal identity as well as understanding how the visual arts can affect society and the environment around us. Students will develop the ability to express their ideas for lifelong use.

DP 評価規準と評価方法

A : Analytical Thinking	Consider the theme from different perspectives/contexts. Research and analyze an artwork from different contexts. Analyze how artists created artworks related to the theme and style. Understand uses of medium, skill or techniques.	
B : Artistic Expression	Improve artistic medium, skills or techniques. Create an artwork that has a clear theme and intention. The style and expression of artwork are appropriate for the intention. Consider various ideas by drawings and experimentation and investigation.	
C : Communicating Through Art	Message to the audience. Able to reflect upon own and others' work. Explain artwork orally. (Presentation) Explain artwork in sketches, diagrams & writing.	
D : Developmental Process	Practice and explore materials/techniques. Schedule and reflection. Recording in a variety of styles. Explain improvements & changes compared to the previous artworks.	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す	
思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考える ・主題を生成し個性豊かに発想し構想を練る ・自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める	
主体的に学習に取り組む態度	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組む ・生涯にわたり美術を愛好する心情 ・感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度	

使用教材

教科書： Visual Arts: Course Companion (Oxford IB Diploma Programme)

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	Experiment 2D & 3D mediums and become comfortable using it.
2 学期	Consider coherent theme and development which takes over the whole exhibition.

3 学期	Analyze for formal qualities, interpretation of function and purpose, and evaluation of cultural significance.
備考	
5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。	

2024/5/9 更新

教科名	外国語科	科目名	英語コミュニケーションⅡ			単位数
学年	5 年		English Communication II			4
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修科目		選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

5 年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。前期課程及び4 年生で身につけた知識の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。既習の語彙・文法を活用しながら、話す・聞く・読む・書く力を総合的に訓練します。聞く・読む活動から、情報を得て、まとめ、分析して話す・書く力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

ISS 評価規準と評価方法

A : Listening	動画視聴などを通じて、外国語を聞き取る力を評価します。	
B : Reading	物語や評論の講読を通じて、外国語を読み取る力を評価します。	
C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。	
D : Writing	エッセイ執筆などを通じて、外国語を書く力を評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書： 教科書：CROWN English Communication II （三省堂）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

- ・習熟度に応じて多様な授業が開講されます。
- ・週 4 時間授業がありますが、その内の 2 時間を日本人教員、残りの 2 時間をネイティブ教員が担当し、全観点に取り扱います。

Core

文部科学省検定教科書を中心に授業を進め、基礎から復習する。

Basic

文部科学省検定教科書を扱いながら授業を進め、速読を中心に様々な活動を行う。

Basic Plus

文部科学省検定教科書のトピックを用いながら意見を深め、大学入試等で利用できるスキルや語彙の伸長も図る。

Advanced English

What will we do? We will learn to think logically and critically, argue fairly and effectively, and act with justice and compassion. How? By researching difficult social issues and debating them formally. Why? To become wise and powerful forces for good in the world.

備考

この科目は選択です。ただし、習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。

教科名	外国語科	科目名	論理・表現Ⅰ	単位数
学年	5 年		Logic and Expression I / MYP: Language Acquisition	1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	必修科目	選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

5 年次では、英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力やディスカッションする力を身につけていきます。

MYP 評価規準と評価方法

C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。	
D : Writing	エッセイ執筆などを通じて、外国語を書く力を評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書： CROWN Logic and Expression I （三省堂）

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

教科書の内容：

課	タイトル	主な言語材料	題材／場面
L1	<i>OriHime</i>	時制	人生・生き方／スピーチ・学校生活
L2	Breakfast Makes Perfect	助動詞	食生活と健康／プレゼンテーション・家庭生活
L3	Cool Japan	受動態	日本文化／ライティング・家庭生活
L4	Save Our Planet	不定詞	環境問題／ディスカッション・学校生活・地域での活動
L5	Volunteer Work for What?	動名詞	ボランティア／ディベート・学校生活・地域での活動
L6	Another Life I Might Have Had	分詞	文学・読書／スピーチ・本を読むこと
L7	What Is Our Greatest Invention?	比較	サイエンス・発明／プレゼンテーション
L8	Discover Japan	関係詞	都市・観光／ライティング・
L9	Urban Life or Rural Life	仮定法	交通・地域／ディスカッション
L10	Music Without a Pianist	接続詞	芸術・テクノロジー／ディベート
P1	My Hobby: Bouldering		スピーチ
P2	A Country I'd Like to Visit		プレゼンテーション
P3	Are Zoos Necessary?		ディスカッション
P4	All Elementary School Students Should Have a Mobile Phone		ディベート
P5	E-Book Readers		ライティング

英語を使いながら様々なテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。

Basic: Basic English Expressions

In this class we will learn about various current topics in English and talk/write about them.

Advanced: English Output Writing

This course will cover all aspects of modern professional presentations in detail. To begin with, we will cover the four basic areas of presentations - Advance Planning, Appropriate Content, Advantageous Structure, Amazing Design, and then finish with Awesome Delivery. These are what I call the 5 A's of presentations. When we have covered these in detail students will then have numerous opportunities to practice giving presentations at the necessary level.

備考

この科目は選択です。（４・５年の分割履修となります。）

５年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

2025/3/25 更新

教科名	外国語	科目名	English A				単位数
学年	5 年 DP		DP English A: Language & Literature HL				5
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

- engage with a range of texts, in a variety of media and forms, from different periods, styles and cultures
- develop skills in listening, speaking, reading, writing, viewing, presenting and performing
- develop skills in interpretation, analysis and evaluation
- develop sensitivity to the formal and aesthetic qualities of texts and an appreciation of how they contribute to diverse responses and open up multiple meanings
- develop an understanding of relationships between texts and a variety of perspectives, cultural contexts, and local and global issues, and an appreciation of how they contribute to diverse responses and open up multiple meanings
- develop an understanding of the relationships between studies in language and literature and other disciplines
- communicate and collaborate in a confident and creative way
- foster a lifelong interest in and enjoyment of language and literature

DP 評価規準と評価方法

A : Knowledge and understanding	mock essays using IB published criteria, classroom discussion, interviews with teacher	
B : Application and analysis	mock essays using IB published criteria, classroom discussion, interviews with teacher	
C : Synthesis and evaluation	mock essays using IB published criteria, classroom discussion, interviews with teacher	
D : Selection and use of appropriate presentation and language skills	mock essays using IB published criteria, classroom discussion, interviews with teacher	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法，語彙，表現など）に対する理解や，4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして，目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え，学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書：

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

備考

5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。

教科名	外国語	科目名	English B			単位数
学年	5 年 DP		DP English B HL			5
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

1. Communicate clearly and effectively in a range of contexts and for a variety of purposes.
 2. Understand and use language appropriate to a range of interpersonal and/or intercultural contexts and audiences.
 3. Understand and use language to express and respond to a range of ideas with fluency and accuracy.
 4. Identify, organize and present ideas on a range of topics.
- Understand, analyze and reflect upon a range of written, audio, visual and audio-visual texts.

DP 評価規準と評価方法

A : Oral skills	Prepared speeches, impromptu speeches, classroom discussion, presentations	
B : Receptive skills	Reading literary and non-literary texts, comprehension tests	
C : Writing skills	Production of various authentic text types online and by hand, grammar and proofreading tasks, study of idioms, quizzes, tests, essays	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書： Philpot, Brad (2018) English B for the IB Diploma [Cambridge University Press]
 副教材： Murphy, Raymond (2012), English Grammar in Use [Cambridge University Press]
 Orwell, George (1945) [Blair, Eric] . Animal Farm A Fairy Story.Tokyo: Nan'un-do.2011. Print. Rpt. In 2005.
 Lowly, Louis (2014), The Giver, Harper Collins

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

		Topic	Contents	Allocated time
Y 1 (5 th)	Semester 1	Orientation	Introduction to class, exams, study methods etc	60 classes
		Text Type Introduction	formal letter, blog, review, essays, official report etc	
		Identities	1. Citizens of the world 2. Belief and identity 3. Beauty and health	
		Literature	Short stories	
		Individual Oral Practice	Practice based on short stories	
		Paper 1 Practice	Writing different text types: blog / formal letter / interview	
		Summative Assessment	A Oral Assessment B Reading comprehension (paper 2 mock) C Written Assessment (paper 1 mock)	
	Semester 2	Human Ingenuity	1. Future Humans 2. Technology and human interaction	65 classes

Y 2 (6 th)			3. Redefining art		
		Experiences	1. Pilgrimage 2. Extreme sports 3. Migration		
		Literature	Book 1		
		Individual Oral Practice	Practice based on The Giver		
		Paper 1 Practice	Writing different text types: review / guideline		
		Summative Assessment	A Oral Assessment B Reading comprehension (paper 2 mock) C Written Assessment (paper 1 mock)		
	Semester 3	Sharing the Planet	1. Ending poverty 2. Climate change 3. Power to the people	35 classes	
		Literature	Short Stories / Speeches		
		Paper 1 Practice	Writing different text types: speech		
		Summative Assessment	A Oral Assessment B Reading comprehension (paper 2 mock) C Written Assessment (paper 1 mock)		
	Semester 1	Social Organization	1. Minorities and education 2. Partners for life 3. The future jobs	60 classes	
		Literature	Book 2		
		Individual Oral Practice	Practice based on Animal Farm		
		Summative Assessment (Predicted Score)	A Oral Assessment B Reading comprehension (paper 2 mock) C Written Assessment (paper 1 mock)		
		Semester 2	Review	1. Review of the 5 themes 2. Review of different text types 3. Review of vocabulary, idioms and grammar	45 classes
			IB External Assessment (November)		

備考

5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。

2024/5/9 更新

教科名	家庭科	科目名	家庭基礎				単位数
学年	5 年		Basic Home Economics				2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修修科目	○	選択必修修科目	
本科目の目標／伸ばしたい力							
(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。							
(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。							
(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付ける。							
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法							
知識・技能		生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付ける。			振り返りシート・レポート・テスト		
思考・判断・表現		生活の中の課題を解決する力を身に付ける。 （課題の設定、解決策の構想、実践、評価・改善） （考察したことを今まで学習したこと等を元に根拠に基づいて論理的に表現）			振り返りシート・レポート・テスト		
主体的に学習に取り組む態度		自分や家庭、地域の生活の充実向上のために主体的・実践的に取り組む。 （学習したことを実践する） （今後の生活にどのようにいかしていくかを考える）			振り返りシート・レポート・テスト		
使用教材							
教科書： Agenda 家庭基礎（実教出版）							
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。							
1 学期		主に「日本の衣生活」「日本の食生活」「日本の住生活」について学習します。					
2 学期		主に栄養素に関する学習と調理実習を行います。					
3 学期		主に「家族・家庭生活」「消費生活・環境」「投資」について学習します。調理実習を行います。					
備考							

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
身のまわりの様々な活動において、情報や情報手段を活用した問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得するとともに、実際にそれらを活用し、チームで協働して問題解決を実践する能力と態度を身につける。	
5 学年【インフォマティクス】の目標/伸ばしたい力	
これまでの情報の授業で習得した知識や技能を活用して、実践的な問題解決に応用する機会としてチームでプロジェクトを遂行し、情報活用の実践力を高める。 ○問題の発見、明確化、分析及び解決の方法を身につけ、問題解決の目的や状況に応じてこれらの方法を適切に選択し、プロジェクトとして実行できる。 ○問題解決におけるデータや I C T の活用方法を身につけ、情報を活用することの有用性を理解する。 ○モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解し、実際の問題解決に活用できる。 ○情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解し、問題解決にデータを活用できる。 ○問題解決の過程と結果について評価し、改善することの意義や重要性を理解する。 ○創造的思考力と合理的判断力を身につけ、問題解決の実践力を高める。 ○チームのメンバーと協働でプロジェクトを遂行するとともに、協働作業（プロジェクト）における自分の役割や特長を理解し、将来（社会）生かせるようにする。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価は、プロジェクトなどのタスク単位の課題および成果物・レポートを対象とし、3 つの評価基準に基づいて行う。
学習内容	
授業の展開はプロジェクトで構成し、あわせて各プロジェクトに対応した講義と実習を展開する。プロジェクトは個人もしくはチーム（グループ）で行い、学校内外のイベントと連携したり、他校（大学を含む）と連携して協働するとともに、外部評価をうけたり改善の手立てとする。プロジェクトはタスク単位に分割して展開するが、実習内容の順序が時間的に前後する場合があるので、授業を通して配布される教材や成果物をファイリングするなど各自で学習内容の管理に努めること。 〈問題解決を支える情報科学〉 ・問題解決とコンピュータの活用（表計算とシミュレーション） ・問題解決におけるモデル化とシミュレーション（セルオートマトンシミュレーション等） ・実験計画と統計的探究と実験計画（シミュレーションの活用・検定など） 〈創造的思考力を支えるプログラミングスキル〉 ・データサイエンスの活用（人工衛星データ）とプログラミング（Google Earth Engine） 〈協働プロジェクトによるシステム開発〉 ・社会問題を解決するプログラミング ・協働を支える情報技術（cloud9 trello） ・協働とプロジェクトの評価	
備考	

教科名	国際教養	科目名	国際 1 ～ 6	単位数
学年	1 ～ 6 年		Global Liberal Studies; The Period for Integrated Studies	1

本科目の目標／伸ばしたい力		
〈1 年〉 様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対しての耐性を養う。 〈2 年〉 様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。 〈3 年〉 様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。 〈4 年〉 自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。 〈5 年〉 異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。 〈6 年〉 社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。		
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法		
知識・技能	各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。	
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		
国際教養群に含まれる各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。		

使用教材	
教科書：	
副教材：	

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。	
1 年	「国際 1 」、「Learning in English 1」
2 年	「国際 2 」、「Learning in English 2」
3 年	「国際 3 」、「Pre Immersion」、「Learning in English 3」
4 年	「MYP Personal Project／課題研究」、「Global Issues」、「英語以外の言語」
5 年	「総合的な探究の時間」「Global Issues」「英語以外の言語」
6 年	「総合的な探究の時間」「国際 A」「国際 B」

上記の科目・総合的学習の時間の他に、1・3・5 年のワークキャンプⅠ・Ⅱ（国内）・Ⅲ（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1 年から 3 年では、4 年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。さらに、5・6 年の「総合的な探究の時間」では、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。	
---	--

備考

教科名	国際教養	科目名	国際 4 / 5 / 6（総合的な探究の時間）			単位数
学年	4・5・6年		Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study			1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		○

本科目の目標／伸ばしたい力

〈4年生：Personal Project〉

- ・生徒個人に特化したものを探究する。
- ・何に焦点を当てたいか（既存の興味または新たな興味）、どのように目標を達成するかを選択する。
- ・探究、行動、振り返りのプロセスを通して、ATL スキルを強化する。
- ・成果物に対して自分なりの成功規準を設定する。
- ・本当の意味で個人として創造的な成果物を生み出す。

〈5年生〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。

〈6年生〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こす。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解しているか。	
思考・判断・表現	現代的な諸課題から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現しているか。	
主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしているか。	

使用教材

教科書：

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

〈国際 4〉 Personal Project

- ・MYP の学習の集大成として Personal Project に取り組む。
- ・社会にどう役立つのかを考えて課題を設定し、自分の力で調査し、分析し、作品やレポート、プロジェクトという形にする。

〈国際 4 後半/5/6〉総合的な探究の時間（課題研究）

- ・本校における探究学習の集大成として、2年間(実際には4年生後半から)かけて「課題研究」に取り組む。
- ・自分の問題意識に照らして研究課題を設定し、適切な研究方法で分析・考察を進め、論文にまとめる。

〈国際 5〉海外ワークキャンプ

・学習領域「国際教養」の集大成として、海外で異文化に触れ、多様な社会・文化のあり方を知るとともに、自国の文化を再認識する。

- ・海外で多様な文化に生きる人々と現代的な課題について共有し、議論する力を伸ばす。

備考

4年生の「総合的な探究の時間」（前半は Personal Project、後半は課題研究）は、生徒全員が履修します。

教科名	理数科	科目名	理数探究			単位数	
学年	5 年		Inquiry-Based Study of Science and Mathematics			1	
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目	○
本科目の目標／伸ばしたい力							
様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次の通り身に付けることを目指す。							
1. 対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付ける。							
2. 多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を身に付け、創造的な力を高める。							
様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を身に付ける。							
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法							
知識・技能		自分の研究の位置づけや価値を明確化することができるか／自分の研究の過程を見通し、実践することができるか／研究倫理について理解しているか／論文を執筆するための技能や効果的に発表するための技能を身に付けているか					
思考・判断・表現		探究の意義や過程、研究倫理を踏まえ、多角的、複合的に事象を捉え、課題(研究テーマ)を設定することができるか／数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行することができるか／探究の過程を整理し、成果などを適切に表現することができるか					
主体的に学習に取り組む態度		様々な事象や課題に知的好奇心をもって向き合い、課題を設定しようとしているか／設定した課題に対して誠実に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとしているか／探究の過程を振り返って評価・改善しようとしているか					
使用教材							
教科書：							
副教材：							
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。							
備考							
◇ 本科目は2年間にわたる分割履修です。5年生と6年生のそれぞれで週1時間開講されます。5年次に本科目を選択した場合、6年次でも必ず本科目を履修することになります。途中で変更はできません。							
◇ 本科目を履修する生徒は、5年次の履修届と同時に、研究内容の方向性がわかるもの(別途様式を作成予定)を提出すること。							

教科名	国際教養	科目名	英語以外の言語：フランス語/ドイツ語/スペイン語/中国語/韓国・朝鮮語	単位数
学年	5 年		French, German, Spanish, Chinese, Korean	2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必修科目
				選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

国際教養の科目として、母語としての MYP 言語 A(国語)および付加的言語としての MYP 言語 B(英語)に加えて、MYP の 3つの基本概念のひとつである多文化理解を深めるために、英語以外の言語の初級の言語能力の獲得を目指します。

MYP 評価規準と評価方法

A : Listening	音声教材や動画視聴などを通じて、外国語を聞き取る力を評価します。	
B : Reading	会話文や説明文などを通じて、外国語を読み取る力を評価します。	
C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。	
D : Writing	文法の学習や作文などを通じて、外国語を書く力を評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書：

◆フランス語：Flash！（駿河台出版社） ◆ドイツ語：Klasse! Neu（白水社）

◆スペイン語：ELE Actual A1 ◆中国語：北京の街角で（両風堂）

◆韓国・朝鮮語：楽しく学ぶ韓国語（DARAKWON）

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

各言語の基本的な発音、語彙、文法を学び、話す、聞く、読む、書く力を総合的に学びます。また各言語圏の文化の理解を深め、コミュニケーション活動を通して、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

【フランス語】

教科書とプリント教材を使用し、初級から中級レベルの文法を学びながら、日常会話を中心にコミュニケーション活動のためのフランス語習得を目指します。また、フランス語圏の国々の文化への興味・関心の育成を目指します。

【スペイン語】

教科書と講師オリジナルのプリントを使用して、初級から中級レベルの文法を学びながら、すぐに役立つ日常会話も学びます。ここでのスペイン語学習のモットーは「楽しく新しい言語を学ぶ」ことです。映像や音楽を通して、スペイン語圏の文化や暮らしを学ぶことを大切に学習を進めていきます。

【ドイツ語】

ドイツ語の初級から中級レベルの知識、日常表現の習得を目指します。授業ではCDやDVD教材なども使用し、実際にドイツ語を使う場面を想定した練習をしたいと思います。音楽や文学、スポーツなど、ドイツ語圏の文化にも触れる予定です。

【中国語】

教科書とプリント教材を使用し、初級から中級レベルのコミュニケーションのための中国語を勉強しながら、中国及び中国語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。

【韓国・朝鮮語】

教科書とプリント教材を使用し、初級から中級レベルのコミュニケーションのための韓国/朝鮮語を勉強しながら、その言語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。

備考

この科目は選択科目です。5 学年で選択する言語は、4 学年と同じ言語を選択しなければなりません（言語の変更は原則認められません）。

4 学年で＜Global Issues＞を選択した場合、5 学年では＜英語以外の言語＞を選択できません。

2025/3/25 更新

教科名	国際教養	科目名	Global Issues				単位数
学年	5 年		Global Issues				2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必修科目		選択必修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

知識と概念を理解し、それらを様々な社会的、文化的、歴史的、個人的な文脈において活用できる力と、コミュニケーション能力の育成を目指します。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	授業中の学習活動・まとめ、課題等から、知識に関する理解度および活用の程度を評価します。	
B：調査研究	課題等から、明確なテーマ設定、論点の提示、異なる立場や複数のソースから情報収集がどの程度できたかを評価します。	
C：コミュニケーション	授業中の調査内容の発表、質疑応答等の様子から、学習内容や調査内容を創意工夫して再構成し、論点を整理してわかりやすく表現できたかどうかを評価します。	
D：批判的思考	授業中の学習活動・まとめ、課題等から、資料や社会的事象を分析し、異なる見解を整理した上で、どの程度適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	MYP の規準 A および規準 B に対応します。知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・課題等から評価します。	
思考・判断・表現	MYP の規準 C および規準 D に対応します。社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・課題等から評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	

使用教材

教科書： トピックに合わせて授業者が教材を準備します。

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

以下のようなトピックを、じっくり時間をかけて多角的に取り組むことを予定しています。

国際紛争、国際貢献（国際連合、ソーシャル・ビジネス）、メディア

備考

この科目は選択です。授業で使用する言語は英語です。4 学年で＜Global Issues＞を選択した場合、5 学年では＜英語以外の言語＞は選択できません。

2025/3/25 更新